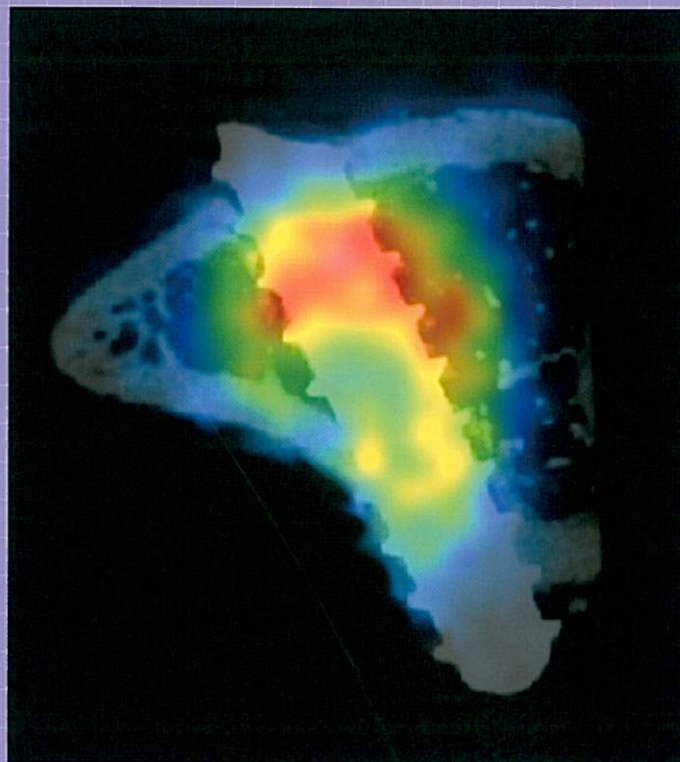


日本歯科評論 5

THE NIPPON DENTAL REVIEW

May 2012 No.835 Vol.72(5)



東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野
佐々木啓一先生 〈私の研究室から〉より

〈特集〉

インプラント治療の術後評価における新たな取り組み

景山正登・宗像源博・淵上 慧・三田 稔・清水勇気・金井 亨

私の臨床

複雑な治療のマネージメント——診査・診断, 治療計画を中心に

吉田拓志・小森真樹

“DH”あなたの出番です!

再考——歯科衛生士の歯周治療との関わり

緒方美智子・清水宏康

創造論と進化論の対立

なかはら えつ お
中原 悦夫

医療法人社団協立歯科 クリニック デュボワ
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルプラザ4階



現代の歯科医学は西洋文明の賜物である。では「西洋文明とはいったい何なのか」と問おうとすると、キリスト教の存在を切り離すことができない、という事実には誰も異論はないだろう。

歯科医学を含める現代医学は、近代科学によって裏付けられている。その近代科学は“宗教”という心の世界を切り離した存在のようでありながら、近代科学が育ってきた背景というべきか、環境というべきか、あるいは思想というべきものを探索すると、その中核をなしているのはやはり“キリスト教”であるということに帰趣してしまう。

進化論を教えられない “アメリカ”という西洋

現代のアメリカで進化論を教えられない高校は、6割とも8割とも言われている。進化論とは、まさしくダーウィンが唱えた“進化論”のことだ。彼は、コペルニクスが地動説

を唱えて弾圧された衝撃に匹敵する大転換説を19世紀に発表した。西洋諸国、とりわけアメリカでは未だに認められない事情がある。「人間と宇宙は神が創った」とする旧約聖書の創世記に起因する創造論がそれであり、インテリジェントデザイン論として今なお、進化論と真っ向から対立したままである。しかし、大学教育となると進化論は普通に研究されているというのだからアメリカらしい。

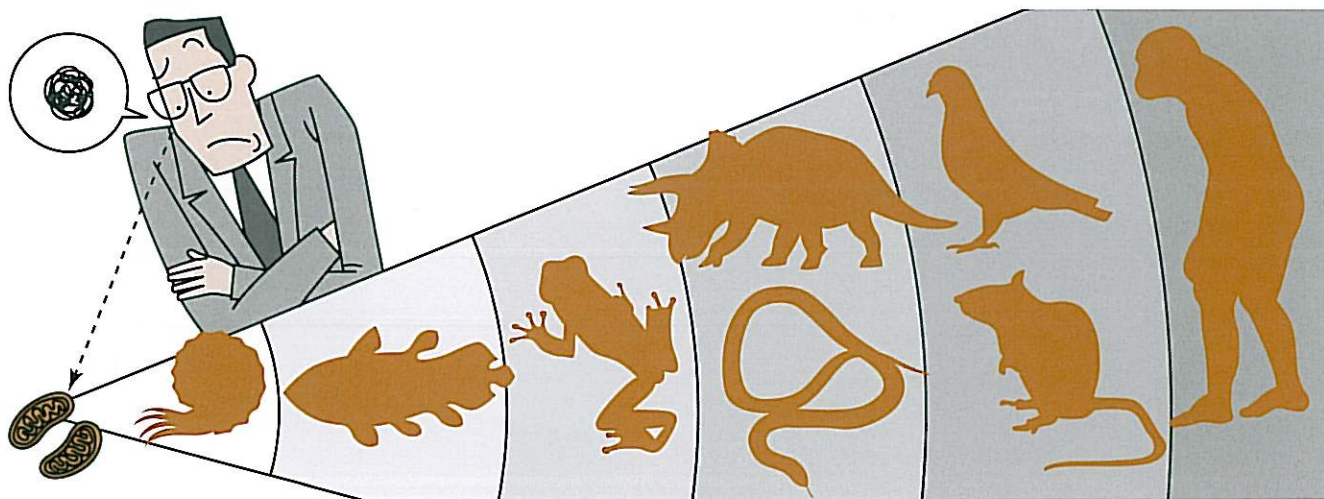
2010年、“宇宙論”のスティーン・ホーキング博士は「宇宙の創造に神の力は必要ない」と表現して宗教界から非難を浴びているし、進化論者のリチャード・ドーキンス博士も、自らの著書で無神論者と称して神の存在を執拗に否定しており、創造論者とは徹底抗戦の構えだ。

これらの騒動は、一見して無神論者と有神論者の戦いのように見受けられるが、西洋社会の生い立ちにはキリスト教の思想の変遷は無視でき

ない。ざっくりひも解くと、ユダヤ教のヘブライ聖書（旧約聖書）に新約聖書を重ね合わせてキリスト教（カトリック）が誕生し、16世紀の宗教改革によりプロテスタントが登場し、やがて近代ヨーロッパのヒューマニズム興隆や政教分離へと繋がることになる。

なぜプロテスタンティズムにおいて自然科学が発展したかという点、人間の理性を信頼し、世界を神が創造したと信じることにより、“人間や宇宙は神が創ったものである”ので神は宇宙の外にある存在である。したがって人間も宇宙も、人間が介入することには問題はない”と解釈することが可能になったからである。そのため自然科学が急速に発展し、人体解剖も積極的に行われることになり、西洋医学が科学の発展と共に成長することになった。

だが皮肉なことに、そうして人類の起源を考究した結果、ダーウィンの進化論に行き着くことになってし



まった。旧約聖書の創世記を源流に持つキリスト教、とりわけカトリックにとって、この進化論は許しがたい真実となって立ち塞がることになったのである。アメリカの教育界において、この論争は現在でも決着していない。

何年かの後には、 誰もが“ミトコンドリア”を 話題にしている

アンチエイジングや一般医療、そして歯科医療においては、保存・再生・外科といった軟組織を扱う領域に新しい概念が想起され始めている。それは“ミトコンドリアに対するアプローチ”である。

そもそも、われわれが習ってきた“ミトコンドリア”といえは、細胞内にある楕円形の一小器官で、そこでエネルギーが造られている……ということぐらいで、細胞内で重要なものは、もっぱら核の中にある遺伝子であると教わってきた。しかし、実際の形は糸状で、細胞内を埋め尽

くしながらその量と形を常に変え、エネルギーとして造り出す ATP (Adenosine Triphosphate) の量は 1 日になんとわれわれの体重と同じくらいにまで達するという、まさに身体の原子炉である。

また、最近の研究では、ミトコンドリアが生命活動の中心的役割を担っていて、有性生殖、性が 2 つある理由、さらに老化のメカニズムにも深く関わっていることがわかってきた。そのうえ、細胞アポトーシスのスイッチ役をも担っており、無制御に増え続ける癌細胞との関連性も研究されている。

歯科においては、すでにコールドレーザーによる光生体刺激効果を利用して、歯髄炎や歯周炎、顎関節症、舌痛症、三叉神経痛、そして矯正時の疼痛等の緩和などに応用されつつある。手術後の組織治癒や矯正時の歯牙移動の促進、歯牙の動揺を固定したり、オッセオインテグレーションの促進にも大きな効果が期待

されている。

*

“ミトコンドリア・イブ説”では、人類の母系ミトコンドリアの DNA を辿ると、1 人のアフリカの女性に辿り着く。ミトコンドリアが生命の重要な働きを担っているという事実がわかってきたというのに、精子は受精したと同時に、そのミトコンドリアの DNA をすべて失ってしまうわけだ。男としては実に情けない。

そして、細菌のような微細生物が人類のような巨大多細胞生物に進化できたのは、原初の真核細胞に飲み込まれた細菌が、真核細胞内で隷属してミトコンドリアになった結果である。人類がサルから進化したどころか、細菌から進化したことに論拠するミトコンドリアである。

はたして創造論者の男性は、“ミトコンドリア再生医療の概念”を受け入れることができるだろうか？！